

平成27年度柴田町議会  
3月会議

# 施政方針

平成28年3月  
柴田町

# 目 次

I	はじめに	1
II	平成28年度予算の概要	2
III	平成28年度の政策目標	4
IV	主な施策の概要	6
1	総合戦略プロジェクト	6
2	地方創生の推進	9
3	魅力的な都市・生活基盤の整備	11
V	おわりに	13

本日、ここに平成27年度柴田町議会3月会議が開会され、平成28年度一般会計予算を始めとする関係諸議案をご審議いただくに当たり、私の町政に対する基本方針と概要を申し述べ、議員各位並びに町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## I はじめに

今年は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災から5年目の節目の年を迎えます。ここに来て、津波で壊滅的な被害を受けた沿岸部の自治体の復旧も進み、新しいまちづくりの全貌が見えるようになってきました。被災者の皆様が一日でも早く元の生活に戻れるよう、さらに生活再建が加速することを願うばかりです。

一方、いち早く震災後の復旧を終えた柴田町は、復興のけん引者となるべく「元気なまちづくり」、「にぎわいのあるまちづくり」を通じて、交流人口を増加させ、地域経済を活性化させることに全力を挙げてきたところです。

昨年の流行語大賞にトリプル3という言葉がありました。柴田町はまさに、トリプル5という業績を挙げることができました。

一つは、昨年12月末現在の観光物産交流館売店の売上げが5,085万円となったことです。

二つは、「光り輝け！しばたのイルミネーション」でのスロープカー有料乗車人数が5,529人となったことです。

三つは、ふるさと納税の寄付金が12月末現在で5,028万円となるなど、四季折々に美しい船岡城址公園や柴田町に関心を持つファンが着実に増えたことです。

「花のまち柴田」をモットーに、これまで観光物産交流館、展望デッキ、コミュニティガーデン花の丘しばた、そして、しばた千桜橋や里山ガーデンハウスなどの観光基盤を順次整備してきた成果が、こうした高い数値となって現れたものと思います。

さらにうれしいことに、第9回杜の都写真コンクール「私の好きな風景」（読売新聞東北総局・宮城テレビ放送主催）で「幸せの架け橋」として、真っ暗な闇にライトアップで浮かび上がる、満開の桜としばた千桜橋の写真が大賞を受賞したことです。一目千本桜に溶け込んだしばた千桜橋が高く評価

された結果だと思えます。これからは、お化粧直しを済ませた船岡平和観音像と、しばた千桜橋のグランドオープンによって、さらなる魅力をアピールできます。

こうした将来の柴田町の発展を見据えた観光まちづくりへの積極的な先行投資によって、交流人口が久しぶりに30万人を超えました。この勢いが定住人口にも良い影響を及ぼし、平成27年10月1日現在の国勢調査において、人口が平成22年と比較して、191人増加の39,532人となりました。柴田町は仙南2市7町でトップの定住人口規模を誇ることとなります。

交流人口の伸び、さらに定住人口の増加は、「花のまち柴田」をモットーに進めてきた観光まちづくりや、住民との協働によるまちづくりが間違いではなかったと改めて自信を深めたところです。

今後も、時代の変化を先取りしながら、「花のまち柴田」のブランド戦略を機軸に、元気でにぎわいのある自治体づくりを目指し、平成28年度の町政運営に当たっていきます。

## II 平成28年度予算の概要

昨年12月に国が示した平成28年度の地方財政対策では、自治体が自由に使える一般財源総額は対前年度に比して1,307億円増の6兆6,792億円が確保されましたが、地方交付税の出口ベースでは、546億円減の1兆6,003億円と、前年に引き続きの減額となりました。さらに、リーマンショック後に上乗せされてきた交付税の「別枠加算」分2,300億円についても、地方税収等の動向を踏まえ、特別措置を平時の対応に戻す観点から、今回廃止されます。

また国は、地方財政健全化に向けて赤字地方債である臨時財政対策債を7,370億円削減することとしており、平成28年度の配分額を注視していかなければなりません。

こうした地方財政対策を踏まえながら、柴田町の平成28年度当初予算は、第5次柴田町総合計画後期基本計画と柴田町地方創生総合戦略に基づき、予算編成を行いました。昨年度に引き続き、社会保障関係費、学校施設等の整備や幹線道路の整備、公園整備、市街地整備、町営住宅整備や水害対策など

の社会資本整備費などを計上しました。大型の公共事業が少ないこともあって、一般会計の予算総額は、対前年度比11.9%減の118億9,908万1千円となり、より堅実な予算規模となりました。

歳入面では、県内の経済動向において、生産や個人消費など一部に弱い動きが見られるものの、震災復興需要などに伴い、経済活動は総じて高水準で推移しており、緩やかに回復しているところです。しかし、町税に関しては、その跳ね返りが少ないため、対前年度に比して2,359万3千円減の41億9,366万4千円を計上しました。特に、法人町民税において税率改正が行われたことにより、3,974万4千円の減額を見込んでいます。地方消費税交付金は、平成26年4月1日からの税率引き上げに伴い、昨年度当初予算で見込んだ6億円をさらに増加すると見込み、1億1,000万円増の7億1,000万円を計上しています。

地方交付税は、対前年度に比して3億5,230万1千円減の27億3,650万円としています。これは、(仮称)仙南クリーンセンター建設負担金等に対する震災復興特別交付税が3億7,230万1千円減額されたためです。この金額を除けば、税収や事業量の見込みにより普通交付税で2,000万円増を見込んでいます。

町債は、北船岡町営住宅3号棟新築工事や船迫小学校プール改築工事等が完了し、新たに船岡小学校大規模改造工事等に着手しますが、10億8,860万円と対前年度比で37.4%、6億5,080万円の減額となり、平成28年度一般会計歳出予算の公債費を下回ることになりました。そのため、平成28年度末現在の地方債残高は143億409万3千円となる見込みです。

当初予算を費目別にみると、一番多く予算配分を行ったのが社会福祉や児童福祉等の「民生費」で、全体予算比で28.8%、次に「土木費」が13.4%で、道路や住宅の冠水対策に重点を置きました。保健衛生、清掃費等の「衛生費」は13.0%、「教育費」は11.9%となりました。その結果、一般会計と5つの特別会計、水道事業会計を合わせた総額は、240億2,552万9千円、対前年度比4.7%減となりました。

今後の中長期的な財政運営については、国の「地方創生」による事業推進はもとより、公共インフラの維持管理費や少子高齢社会の進行に伴う扶助費

の増加が見込まれます。今後とも、町民の皆様が求める安全で安心な暮らしや都市インフラの整備、さらに文化・スポーツ環境の整備の推進に当たっては、「入るを量りて出ざるを制する」といった財政規律に意を注いでいかなければならないと考えています。

そのため、平成28年度の予算編成にあたっては、昨年度よりも財政調整基金からの繰入金を減額し、財政調整基金と町債等管理基金を合わせ12億円余りを確保する等、少子高齢社会が加速し、将来の財政見通しが不確実性を増す中で、後年度での財政リスクを回避しながら、堅実な自治体経営に努めていきます。

### Ⅲ 平成28年度の政策目標

平成28年度の政策目標にあたっては、社会の動きや国の施策の動向、直面する地域の課題を的確に捉え対応しました。

国の動きで注視すべきことは、いわゆるアベノミクスの変調の兆しです。世界経済の先行きへの懸念を背景にして、株安、原油安、そしてマイナス金利といった世界規模で市場に動揺が広がりつつあります。

これまでも、地方経済への恩恵が薄いといわれてきたアベノミクスがここにきて変調するようなことになれば、企業の設備投資マインドが冷え込み、地方経済が浮上しないまま地方は人口減少の波に翻弄されたままになってしまいます。地方における人口減少問題や、首都圏や仙台都市圏への一極集中は、国土や県土の均衡ある発展を阻害し、さらに都市と地方との格差を拡大しかねない由々しき問題です。今後さらに、経済のグローバル化、規制緩和、効率化によるコスト削減といった経済至上主義が強化されていくようなことになれば、地方の経済縮小はますます深刻化してきます。

T P Pによって農業を続けていけるのかといった農家の不安、大学卒の4人に1人が非正規労働者と言われており、年間180万円程度の収入で、将来に希望や夢がもてるのかといった若者の不安。地域においては、地域との関係が絶たれた高齢者の引きこもりが増え、孤立する一人暮らしや二人暮らしの世帯も多くなっています。住み慣れた地域で、安心してこれからも暮らしていけるのかといった高齢者の不安など、多くの方が先の見えない不安の中で暮らしています。

こうした社会の病理は、経済の規模拡大や成長発展をひたすら追い求めるだけでは解決できるものではありません。ましてや一自治体の力では到底解決できるものではありませんが、まずは率先して柴田町から従来の価値観に捉われない真に豊かな暮らしの提案を行い、地域コミュニティの再生を通じ、町民の皆様が幸せを感じられる地域社会づくりに向けて、さらなる一步を踏み出していきたいと思えます。

今年、東日本大震災が発生してから5年目の節目の年であり、この震災をきっかけに、多くの方が自分の生き方や働き方に疑問を持つようになってきました。特に、若い世代による「田園回帰」や「ふるさと回帰」といった新たな動きが起こっています。都会でクリエイティブな経験を積み重ねてきた若者たちは、自分の居場所を求めながら自然の恵みを活用し、人と人との温かさを感じ、つながりの中から新たな仕事おこしや生きがいをいづくりに挑戦しています。

若きリーダーたちによる新たな地域社会づくりや、コミュニティづくりへの様々な試みや活動は、従来の経済社会システムや個人の価値観を問い直すきっかけとなるばかりでなく、これからの社会に大きなインパクトを与えるものと思えます。

全国各地で、地方を良くしたいという意欲を持った若者たちと自治体とが連携して、地域ブランド力を高め、オンリーワンのまちづくりに成功している事例が数多く生まれています。地方は今、新しい価値観の創造を目指す、ローカルイノベーションの時代に突入したと言えます。

柴田町も「ふるさと回帰」や、ローカルイノベーションの流れを引き寄せ、独自の政策、独自の発想、独自のノウハウを駆使しながら、「花のまち柴田」のブランド化やフットパスによるまち歩きの推進、国内外への情報発信力の強化を重点的な政策に位置づけ推進します。

今年、第5次柴田町総合計画後期基本計画の2年目の年であります。さらに、後期基本計画の基本目標を包含した「柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略ーフットパスによる元気なまちづくりー」が実質スタートします。

その重点戦略の柱は、一つに雇用創造プロジェクト、二つに交流・移住推進プロジェクト、三つに子育て世代応援プロジェクト、四つに暮らしを支える基盤づくりプロジェクトです。こうした四つの総合戦略をベースにした中

での主な施策の概要を申し上げます。

#### **IV 主な施策の概要**

##### **1 総合戦略プロジェクト**

###### **(1) 雇用創造プロジェクト**

雇用の創出に向けて、企業誘致や小規模事業者の経営改善、異業種事業者間の連携事業を積極的に支援するとともに、地域資源を有効活用し、生産・加工、そして、流通・販売までを見据えた6次産業化を推進し、新たな特産品の開発を目指します。町内の菓子店や加工業者と農家が連携し、特産品や加工品などの開発に向けたマーケティング調査、試作、販路開拓を行う場合に要する費用に対して「特産品開発等事業補助金」を交付し支援を行います。

また、新商品の販路開拓については、観光物産交流館や東京のアンテナショップでの販売、各種イベント時での展示等により、商品紹介の機会を提供します。さらに、農産物直売所の地域情報マップの作成や伝統的な食文化などの情報発信、ふるさと納税を活用した花きや農産加工品の販路拡大を通じて、小さな仕事おこしに地域ぐるみで取り組み、働く場の創出に努めます。

商店街の活性化については、商店街のにぎわいの創出につながるよう、空き店舗を活用した起業家支援や、柴田町商工会青年部が主催する「B級グルメフェスティバル」、柴田町商工会女性部が主催する「みちのく招福まつり」、また、新たなイベントである光のまちづくり事業の一環として、商店会のイルミネーション設置等への支援も継続します。

また、働く場の確保のために、ハローワークや事業所、シルバー人材センターなどと情報の共有を図るとともに、仙南地域職業訓練センターと連携しながら、働くための技術の取得や就業相談等を通じて、失業者の再就職への支援、若者や女性をはじめとする幅広い就労の場の確保を目指します。

###### **(2) 交流・移住推進プロジェクト**

しばた千桜橋や里山ガーデンハウスの完成で、花見の名所としての魅力が高まりました。さらに、国を挙げてのインバウンドへの取組が功を奏し、昨年の桜まつりには、柴田町始まって以来の多くの外国人観光客が来訪するまでになりました。

平成28年度は、さらに白石川親水公園や桜の小径の整備、歴史的な観光



資源の再整備を進めるとともに、さらに多くの外国人観光客を呼び込むため、インバウンド推進協議会を中心に「花のまち柴田」インバウンド推進事業を積極的に推進します。特に、春の「桜まつり」、夏の「紫陽花まつり」、秋の「曼珠沙華まつり」と「みやぎ大菊花展柴田大会」、冬の光のイベントである「光り輝け！しばたのイルミネーション」など、四季折々のイベントをより一層充実させることで、国内外に柴田町の魅力をアピールし、集客力の向上に努めます。

また、住民による「おもてなしの心」を育むため、イベント開催時の総合観光案内所の設置、外国人観光客が増加していることから、外国人向けの観光パンフレットの作成や案内板の設置、外国人観光客も案内できる観光ボランティアガイドの育成に取り組みます。

さらに、新しい人の流れをつくるために移住・定住関連の情報提供や支援を一元化した全国移住ナビを活用して、仕事、空き家、イベントなどの情報発信にも努めます。

### **(3) 子育て世代応援プロジェクト**

子どもの減少や多様化する保育ニーズへの対応、さらに、いじめや子どもの貧困への対応が求められています。若い世代が安心して子どもを産み育てられるよう、保健、福祉、教育などの関係機関が連携し、妊娠から出産、保育、教育まで切れ目のない子育て・子育てのための支援体制を整備します。

#### **①教育環境の充実**

教育の主役は、子どもたちです。学校教育においては、課題を見つけ、自ら考え、解決に向けて粘り強く取り組むことができる「生きる力」の育成を図るとともに、命の大切さや思いやりの心をもつ豊かな人間性を育み、笑顔と活力あふれる学校、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進します。

また、地域人材を活用した学び支援員と仙台大学生を活用した放課後先生の実践を、地方創生先行型のトップアスリート事業として継続するとともに、トップアスリートとの出会いを通して、将来に夢と希望を膨らませることを目指すなど、町と仙台大学、総合型地域スポーツクラブが連携し、児童生徒の学力及び体力の全体的な底上げを図ります。

いじめ問題については、すべての小中学校が継続して「いじめゼロ運動」に取り組み、家庭や地域と連携しながら、いじめの未然防止・早期発見・早

期対応に努めます。

安全で快適な教育環境の整備としては、船岡小学校の大規模改造工事や緊急地震速報設置工事を行うなど、各小中学校の要望に沿ったきめ細やかな教育環境整備に努めます。また、学校の体育館にAEDを設置し、休日や夜間開放時の救急救命処置が必要となった場合に活用できるようにします。

## ②子育て環境の整備と支援

次代の社会を担う子どもたちが健やかに育ち、誰もが安心して子育てができる環境づくりを継続して推進していきます。

平成28年度からは新たに、核家族等で日常生活に支援を必要とする妊産婦や一時的に生活援助が必要なひとり親家庭等に、ヘルパーを派遣する事業を実施し、子育て支援のサービス拡大に取り組みます。

### (4)暮らしを支える基盤づくりプロジェクト

高齢者などが、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活ができるようにするために、医療・介護予防・住まいなどの生活支援を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」の構築を図ります。

また、自主的な住民活動による地域コミュニティの再構築や地域の連携により、暮らしを支える生活基盤を整備し、住み慣れた地域で多世代と交流ができる、時代にあった地域づくりを目指します。

## ①健康づくりの推進

町民の健康づくりのため、健康教室や健康診査、各種がん検診を実施し、町民の健康増進と疾病予防を推進します。

国民健康保険の特定健康診査受診率向上に向け、健康診査自己負担を無料にするとともに、新たな健康セミナーの開催や、未受診者対策として電話等による受診勧奨を実施します。

町民の健康づくりへの取組を促進するための「しばた健康づくりポイント事業」については、関係課と連携し充実を図ります。

## ②誰もが安心して暮らせる福祉の推進

誰もが住み慣れた地域の中で自立した生活が送れるよう地域や家族、関係機関と連携を図りながら、福祉サービスの提供に努めます。

地域福祉については、地域の民生委員・児童委員や宮城県仙南保健福祉事務所、宮城県南部自立相談支援センターなどの関係機関との連携強化を図り、

支援体制を充実します。

障がい者福祉については、利用者のニーズに応じた多様な支援を図れるよう、専門機関による相談支援や情報の提供及び事業所等との連携により生活や就労支援の充実を推進します。

### ③生涯学習・文化活動の推進

生涯にわたって学べる環境を整備するため、図書館槻木分室を槻木生涯学習センター内に設置し、図書館本館と連携しながら地域住民の生活文化・教養の向上を図ります。また、図書館から小中学校へ派遣している学校司書を昨年度に引き続き1名増員して5名体制とし、児童生徒による学校図書館の利用促進及び読書環境や学習環境の充実に努めます。

文化財保護事業では、柴田町町制施行60周年記念事業として、文化財第11集「之波太乃光」の改訂版を発行します。

### ④フットパスによるまち歩きの推進

フットパスの推進については、町の地域資源に磨きをかけ、歩いて楽しいフットパスコースを整備し、魅力あるまちづくりを創造するため、まちなかから里山へと人の流れを誘導し、健康意識の向上や交流人口の増加、地域ビジネスの創出を有機的に結びつけ「小さな拠点」を形成し、持続可能な地域づくりを推進します。

## 2 地方創生の推進

柴田町の地方創生は「人口減少の抑制と地域経済の縮小の克服」をするために、町民が一丸となって地域資源を生かし、これまでになかった新しいものやサービス、おもてなしを通じて、元気でにぎやかなまちを自分たちの手でつくろうというものです。

平成28年度は、平成27年度に国の地方創生先行型交付金を活用して取り組んだ、外国人観光客を増やすためのインバウンド推進事業や、笛を機軸とした小さな拠点づくり等の事業をさらに加速させるために、新型交付金（地方創生推進交付金）等を活用しながら官民が連携して事業の進化を深めていきます。

### (1) 異業種ビジネスチャンス支援事業

町では早くから工業団地を造成して、公害のない内陸型企業の誘致活動を

進めてきました。その結果、現在では多くの「ものづくり工場」が操業しています。しかし、その半数以上の企業は、従業員 30 人未満の小規模企業であり、新しい産業と雇用機会の確保が課題となっていることから、企業の多種多様な交流や連携を応援することで、新規事業を起こし地場産業の育成を支援します。

### **(2) 柴田の6次化支援強化事業**

町の特産品である「雨乞の柚子」と「ぜいたく味噌」については、6次化支援強化事業に取り組み、「雨乞の柚子生産組合」、「柴田特産品加工組合」においてマーケティングや加工品の試作を行いました。これらを新たな特産品とするための商品化や販路開拓、さらに加工技術の向上や施設整備への取組については、国・県の支援事業を活用しながら、生産者である「雨乞の柚子生産組合」、「柴田特産品加工組合」を支援します。

### **(3) 若年者等職場定着支援事業**

産業構造や若年者の就業意識の変化等に伴い、若年者の早期離職の傾向が続いています。町内中小企業における若年者等の離職防止を図るため、経営者や管理者を対象にした若年者の職場定着に役立つ「雇用管理研修」及び若手社員を対象にした「メンタルヘルス研修」を開催し、若年者の早期離職防止を支援します。

### **(4) 地域資源を活用した小さな拠点整備事業**

地域資源を活用した小さな拠点づくりとしては、「上川名地区活性化推進組合」が行う再生竹林での筍栽培、野菜直売所での生筍と加工品の販売、農村レストランへの食材の提供、筍掘りや料理コンテスト等のイベントなど、筍を題材とする地域資源の活用に努め、コミュニティビジネスの育成や交流人口の増加に向けた取り組みを支援します。

### **(5) 地域資源を活用した観光振興事業**

町では「花のまち柴田」を切り口に、桜の季節はもとより、年間を通した観光地となるよう四季折々の花木を植栽し、また、花に関するイベントを開催しています。「花のまち柴田」の知名度アップと多くの観光客を呼び込むためには、情報発信力が大事となることから、町や観光物産協会のホームページで魅力ある観光情報を発信し、積極的な観光プロモーションを展開しながら、観光まちづくりを推進します。

#### **(6) 「花のまち柴田」インバウンド推進事業**

外国人観光客がまちなかを安心して一人で周遊できる環境づくりと、外国人観光客を温かく迎え入れるおもてなし作戦を展開するため、今年2月18日に設立した「花のまち柴田」インバウンド推進協議会を中心に、インバウンドに対する気運の醸成やボランティアガイドの育成、外国語表示の観光案内板の設置等を行い、受け入れ態勢の整備を進めます。

#### **(7) 阿武隈急行沿線地域の広域連携と新たな観光資源創出事業**

阿武隈急行沿線5市町で連携し、阿武隈急行を活用した効果的な地域づくりを促進するため、地域づくりのベースとなる観光に関わる基礎データの収集、観光入込客数統計分析等の手法について研究を行い、観光分野及び統計分野における有識者の助言をいただきながら、今後の事業推進計画を立案していきます。

#### **(8) 太陽の村冒険遊び場整備事業**

太陽の村冒険遊び場整備事業については、子どもが楽しく遊べる幼児遊具や大型遊具「ふわふわドーム」の整備を行います。また、野菜の収穫やクッキング、クラフト製作、軽スポーツ等、親子で楽しめる体験プログラムを充実させ、太陽の村の来訪者、特に子ども連れの家族利用者の増加を目指します。

#### **(9) トップアスリート育成事業**

仙台大学の専門的知識や人材を活用し、町内小中学生の体力向上や運動習慣を身につけさせることで、子どもたちのスポーツに対する夢や思いの向上を図り、トップアスリートに育てるための体制づくりや指導者育成を目指します。

### **3 魅力的な都市・生活基盤の整備**

都市生活の基盤整備については5項目について全力を挙げて取り組みます。

#### **(1) 公共施設等総合管理計画の策定**

人口減少時代における公共施設の整備や管理のあり方について、平成28年度に指針を示していきます。新しい施設の建設抑制、同じような機能を持つ施設の統廃合、公共施設の延命化対策や管理のあり方について検討します。

この計画を策定するにあたっては、総合体育館や図書館などの大規模な公

共施設の建設計画との兼ね合いもありますので、多くの町民の皆様の意見に耳を傾けながら慎重に進めていきます。

## **(2) 防災・冠水対策**

昨年9月10日の関東・東北豪雨は、柴田町にも大きな被害をもたらしました。これまでも、町内各地における局地的な冠水対策については、全力で取り組んできましたが、最近の雨の降り方は異常で、これまでの想定を超えるものとなっております。河川や水路の抜本的な改修には相当な費用と時間を要することから、今年はソフト面として、局地冠水対策マニュアルを作成します。作成にあたっては、各地域の水害の歴史に学びながら、阿武隈川や白石川の水位と水門や排水機場の操作について、その手法を明らかにし、町民に見える化を進め、下名生地区や槻木地区、西住地区等の局地的な冠水対策や緊急避難に生かしていきます。

ハード面の対策として、下名生剣水地区の雨水対策と三名生堀改修の調査に着手します。さらに、槻木西三丁目、槻木上町二丁目、船岡西二丁目、船岡大住町に常設型ポンプを増設して、浸水被害の軽減を図ります。

鷺沼排水区公共下水道雨水整備については、現在進めている雨水函渠工事を引き続き実施するほか、5号調整池の整備に取り組めます。

また、避難所誘導に際し、夜間でも認識できる蓄光看板の改修や反射型の標示板の設置に加え、町民の皆様にもわかりやすく土のう置場を明示し利用に供するとともに、避難所となる各小中学校の体育館に災害時に対応できる電話機を設置し、迅速な情報伝達がとれるようにします。

## **(3) 快適な生活空間の整備**

快適な日常生活をおくる上での基礎的インフラである道路整備については、国の交付金事業を活用して、町道富沢16号線の整備促進及び町道槻木169号線ほか44路線道路の補修工事を行います。生活道路では、上名生25号線の道路補修工事をはじめ、側溝改修も進めます。

また、町営住宅については、二本杉町営住宅建替事業を継続し、北船岡町営住宅4号棟・5号棟の実施設計を行います。

平成29年4月から供用開始する(仮称)仙南クリーンセンターは、年内中に試運転を行う予定となっております。また、柴田斎苑建替事業については、

平成31年4月の供用開始に向けて、事業に伴う手続きや用地取得並びに設計等が開始され、本格的に事業が始まります。

#### **(4) 農村空間の保全と里山景観の再生**

農業・農村の持つ多面的機能を発揮していくために、多面的機能支払交付金を活用し、前年に引き続き、荒廃農地の解消や農地維持支払事業、資源向上支払事業に13地区の資源保全隊が取り組みます。

また、里山の美しい自然景観を活用した里山ハイキングコースを継続して整備していくとともに、花に彩られた農村を結ぶ農道槻木線を基軸として、農産物直売所や農村レストランが連携したグリーンツーリズムを推進し、交流人口を増やす中で、心豊かな農村や里山を保全・創造していきます。

#### **(5) 総合体育館の建設**

総合体育館の規模については、A案（総事業費約50億円）、B案（同約40億円）、C案（同約30億円）の3案について、住民懇談会や体育関係者の間で意見交換を行ったところです。「どうせ作るなら、中途半端でないものを」「子どもや孫に過度の借金を残さない規模のものを」とそれぞれ異なった意見が出されました。しかし、私としては、早急に建設するためには柴田町の身の丈に合った財政的にリスクの少ないC案を基本に考えたいと思っています。

新年度の予算では、建設予定地のボーリング調査などの基礎調査を実施してまいります。その後、より豊かな町民のスポーツライフの充実と新たなにぎわいを創出する文化施設として、また、防災拠点施設となるよう、議会の同意を得た上で基本設計に着手します。

## **V おわりに**

平成28年度は、旧船岡町と旧槻木町が合併し、柴田町が誕生して60周年になります。50周年の節目の年には、財政危機が差し迫り、お祝いをすることができませんでした。しかし、今回は記念事業として、四季の彩りをテーマに、美しい柴田町の景観を映像化したプロモーションビデオと次の世代に引き継ぐべき町の宝物「しばた100選」を、3月27日（日）に町民の皆様にお披露目したいと考えております。また、4月には町制施行60周年記念事業として、念願だった全国さくらサミットを14日（木）、15日

(金)の両日に開催し、しばたの桜の魅力を発信するとともに、桜を絆として結ばれた全国の自治体と連携し、桜を保護しながら、千年先まで伝えていきたいと考えております。

このように桜を起点にした観光まちづくりは着実に進展しています。今や白石川堤一目千本桜や船岡城址公園の桜、そして、それを結ぶしばた千桜橋は外国人観光客の心までもしっかりと捉え、「花のまち柴田」の知名度が上がってきました。今後さらに、集客力を高め、まちなかににぎわいをつくり出していくためには、新たな町の魅力や活力を生み出そうとする町民の皆様の熱意と行動力が是非とも必要です。町民誰もが地域の創生に参加し、官民との協働のもとに、外部の人材を活用しながら、アイデアと創意工夫を重ね、自ら汗をかき地域を動かしていく。こうした活動の活発化こそが、柴田町を次の成長発展ステージに押し上げる原動力になると思っています。今私たちが成すべきことは、「自分たちでできることは何でもやる」といった率先垂範です。

いよいよ3月26日(土)には、北海道新幹線が開通します。また、7月1日(金)に、仙台空港が完全民営化されることにより、格安航空会社(LCC)を利用した多くの外国人観光客が宮城県にやって来ると期待されています。まさに今年は、新たなステージに向けて駒を進める出発の年であり、未来の扉をひらく年であります。

私は、改めて柴田町の元気でにぎわいあるまちづくりに向けて強い意欲と情熱を持ち、果敢にチャレンジし、成果が生まれるまでじっくりと腰を据えて取り組んでいきます。

柴田町が地方創生のトップランナーと評価されるよう全力で町政運営に当たってまいります。